



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

シリア：ジュネーブ国際会議（2014年1月22日）

11月25日、国連の潘事務総長は、シリアの和平を目指すジュネーブ国際会議について、2014年1月22日にジュネーブで開催すると発表した。同日、アラブ連盟・国連のブラヒミ特使、米国、ロシアの高官がジュネーブで準備会合を開催していた。ブラヒミ特使は、記者会見で、同会議会では2012年6月に1回目のジュネーブ国際会議で合意されたシリアに移行政府をつくるという共同声明が議題になるとした。12月20日に国連・米国・ロシアが準備会合を開催する予定で、25日時点では会議のスケジュールや参加国はまだ確定していない。

米国とロシアは、2013年5月にジュネーブ国際会議を開催すること合意した。当初、開催時期は5月末とされたが、その後延期が続いた。10月には、シリア政府要人あるいはアラブ連盟のアラビー事務総長が11月23～24日の開催に言及したことはあるが、国連が具体的日程を表明したことはなかった。今回、潘事務総長が、2014年1月22日開催を明言したことは、会議開催実現のための状況が改善したと国連、米国、ロシアが判断したのかもしれない。11月26日、シリア国民連合のジャルバ議長は、訪問先のカイロで、1月開催予定の国際会議への参加条件として、アサド政権側で内戦に参戦しているヒズブッラーの撤退、イラン革命防衛隊の国外退去、政権側に拘束されている、全ての反体制派活動家や市民の釈放、バッシュール・アサド大統領自身が会議には参加しないことなどを求めた。ただシリア国民連合は、会議参加については最終的な決定はしていないと報道されている。

評価

現在のシリア国内の状況を見れば2014年1月22日に会議が開催されるかは疑問である。しかし、国連、ロシア、米国は、具体的日時を定めて開催への根回しを開始しようとしている。シリア反体制派は、以前のような会議参加への強い拒絶反応を見せていない。議題も参加国も未定な状況であり、1月の会議開催が延期されるとしても、国連、米国、ロシアの国際会議開催への意思に変わりはないようだ。

（中島主席研究員）